

Das 18. interuniversitäre Seniorenseminar

für deutsche und japanische Kultur

第18回 インターユニゼミナール

Europa: Idee und Wirklichkeit

ヨーロッパ: 理念と現実

インターユニ・ゼミナールは、ドイツ語やドイツの文化・社会に関心を持っている日本人と日本滞在中のドイツ人が集まって、一つのテーマについて、日本とドイツを比べながら、ドイツ語で話し合う催しです。このゼミナールがめざすのは、アカデミックな話題も日常的な視点から見直し、同時に身近な問題の中に学問・研究の手がかりを発見していくことです。そのためにはゼミに集った人たちがそれぞれに、日本人とドイツ人の間の違いや教師と学生の立場の違い、世代や性別による感性の差、そして専門の間の壁を打ち破って討論することが重要だと考えています。

今回は、ヨーロッパをテーマに取り上げました。もちろんこの対象をあらゆる専門領域にわたって考察することはこの短いゼミの間では出来ません。ドイツ語圏の国々を中心に据え、「歴史」「経済」「政治/法律」また「統合と地域主義」の観点から現代のヨーロッパ、ヨーロッパ連合(EU)を見て行きたいと思えます。さらにそれに対する人々の様々な受けとめ方やその思想的背景なども考えて見たいと思えます。

ちょっと「欲張りすぎ」ではないかと言われそうです。テーマとの取り組みだけでなく、日本・アジアとヨーロッパ・ドイツ語圏という二つの文化の間を絶えず往復しながら、考える力もドイツ語の力も同時に身に付けよう、さらに専門の枠を超えた学際的な見方をしていこうというのですから! でも、まずこのゼミに参加してみてください、たとえドイツ語の議論が苦手でもがまいません。きっと何か一つは有意義な発見・成果があると思えます。そして私たち主催者側も、皆さんとの議論の中からきっと何か得るものがあることを期待しています。

今回は、各サブテーマについての講演を中心にゼミナールを組み立てて行くことにしました。上記のようなテーマについての講演を聞いた後、グループに分かれてテキストを解釈したり討論し、その結果を午後持ち寄ってさらに討論する、というような形を考えています。講演はドイツ語あるいは日本語で行われますが、ドイツ語を聞くのに慣れていない人や、日本語の不得意なドイツ人の参加者のために、東京ゲーテ・インスティトゥートの通訳コースの受講生をお願いして、同時通訳をつけるつもりです。

ゼミの中では、なるべくドイツ語で発言するようにしたいと思います。ただ、言いたいことがあっても、ドイツ語でどう言うのか分からないというときには、まず日本語でも言って下さい。あとはみんなドイツ語になおしてみましょう。

また、28日は学生側企画の日にしたいと思います。特に取り上げたいテーマなど(出来れば具体的なテキスト・素材なども)を申込用紙の裏面に書いて下さい。(プログラム参照)

日 時: 1996年7月25日(木)~30日(火)

場 所: 〒389-13 長野県上水内郡信濃町野尻湖 ほとり荘 TEL:0262-58-2606

参加費: 39,000円(5泊6日の宿泊・食事、テキスト、通信費を含む)

応募資格・人数: 大学の専門課程(原則として3年生以上)または大学院でドイツの文化・社会に関心を持ってドイツ語の勉強をしている学生であれば専攻は問いません。 募集人数: 25名程度

申込締切: 1996年7月5日(金)(募集人員に達し次第締め切ります)

申 込 先: 東京大学教養学部外国語ドイツ語部会 吉島 茂宛 郵送

〒153 東京都目黒区駒場 3-8-1 TEL:03-5454-6354 FAX:5454-4329

問合わせ先: 吉島=03-3482-8887(自宅)、Müller-Seip/藤高:03-3584-3201(東京ドイツ文化センター)

東京大学教養学部教養学科ドイツ分科研究室:03-5454-6356 箭野(やの)

◎準備のためのテキスト等は7月10日頃に送付しますので、その時点での住所を申込み書に明記して下さい。

◎野尻湖畔では自由時間に水泳、ハイキング、ボート、ピンポン、テニス等のスポーツを楽しめます。水着などをお忘れなく。その他に、湖上祭の花火(27日)も楽しみに!!

指導: 相沢啓一(青山学院大学助教授)、Sebastian Graeb-Köneker(東京大学講師)、Claudia Müller-Seip (Goethe-Institut Tokyo)、Martin Lange(早稲田大学講師)、松永美穂(フェリス学院大学助教授)、大石紀一郎(東京大学助教授)、境 一三(成蹊大学助教授)、Peter Giacomuzzi(東京大学講師)、吉島 茂(東京大学教授)他

講演予定: Christian Fotsch(スイス大使館文化部)、Albrecht Rösler(大阪大学講師)他

1996年6月

Interuni-Seminar実行委員会: Claudia Müller-Seip、吉島 茂
協力: Deutscher Akademischer Austauschdienst(ドイツ学術交流会)
Goethe-Institut Tokyo(東京ドイツ文化センター)

Das 18. interuniversitäre Seniorenseminar

25. ~ 30. Juli 1996 Nojiri / Nagano

	25. Donnerstag	26. Freitag	27. Samstag	28. Sonntag	29. Montag	30. Dienstag
8.00 9.00		<i>Redol.</i> F r ü h s t ü c k <i>Wirts Stud Regionale Aspekte</i> Thema I Thema II Gruppenarbeit Thema III				
		Vortrag + <i>Rösler</i> Diskussion in Gruppen	Vortrag + <i>Beck</i> Diskussion in Gruppen <i>KR</i>	Nachbereitung (studentische Planung)	Vortrag + <i>Fotsch 31?</i> Diskussion in Gruppen <i>Stadionstz</i>	Eva- lua- tion
12.00		M i t t a g s e s s e n + P a u s e				
14.00 15.00	AN- REISE					AB- REISE
	Einführung + <i>DH Spiegel</i> Einleitungs- vortrag	Gruppenarbeit+ Plenum: Protokolle der Gruppenarbeit + Diskussion	Gruppenarbeit+ Plenum: Protokolle der Gruppenarbeit + Diskussion	Freie Zeit	Gruppenarbeit+ Plenum: Protokolle der Gruppenarbeit + Diskussion	Änderungen vorbehalten
17.00	A b e n d e s s e n + P a u s e				Schluß- diskussion	
19.00	Gruppen- arbeit	Abend- programm	Feuerwerk Wasserfest	Abend- programm	Schlußfeier	
21.00	?? N a c h t r u h e ??					

----- き り と り せ ん -----

第 1 8 回 S-インターユニ・ゼミナール 申 込 書

氏名: _____ ; _____ 漢 字 _____ ローマ字 _____ 男/女 _____

住所: 〒 _____ TEL: _____ Fax: _____

E-Mail: _____

所属: _____ 大学 _____ 学部/大学院 _____ 学科/専攻 _____

入学(院)年: 19 _____ ドイツ滞在歴: _____ 年 _____ 月 _____ 滞在地: _____

インターユニゼミ参加歴 (○を付けて下さい) : ない ある(いつ?) : 甲子 年/野尻 年

その他、学生企画の日に取り上げたいテーマに関する提案は裏面に書いて下さい。
 テキストの発送など手伝って下さる用意のある方は、あいている日に○をつけて下さい。

7月5(金), 6(土), 8日(火)